



校長室だより

星野富弘さんの生き方に学ぶ～「鈴の鳴る道」より～



暦の上では立春（2月4日）は過ぎましたが、まだまだ寒い日が続いています。この様な中、職員玄関北側には青々と立派に育っている竹、雪の重さで折れている竹も見られます。その様子を見て星野富弘さんの「竹」の絵と詩を思い出し、今回の講話では星野さんの絵と詩を紹介してみました。

道の“でこぼこ”を迂回せず進もう～心に授かった鈴を鳴らしながら～

全校の皆さん、おはようございます。今日も気持ちよいあいさつが出来ましたね。さて、岸野小の周りには竹が沢山育っていますね。今年は雪も多く、中には折れている竹も見られました。そんな竹を見ながらこの詩と絵を思い出したので、今日は皆さんに紹介してみようと思います。【星野富弘さん『花の詩集画』から「竹」の詩画を掲示】。詩を読みます。「竹が割れた。こらえにこらえて倒れた。しかし竹よ、その時お前が共に苦しむ仲間達の背の雪を払い落としながら倒れていったのを私は見ていたよ。ほら、倒れているお前の上にあんなに沢山の仲間が起き上がっている」この絵と詩を描いた人を知っている人はいますか？この絵と詩はこの人が描きました。【星野さんが車いすに乗っている写真を掲示】この人は星野富弘さんと言います。もともとは群馬県の中学校の体育の先生でしたが、体操部の指導中事故にあって首から下が全く動かなくなりました。では、この絵や字はどうやって書いたのでしょうか？そう、筆を口にくわえて描いたのです。【星野さんが筆をくわえて絵を描いている写真を掲示】最初からこんなに上手に描けたわけでは「ありません。【最初に書いた文字の写真を掲示】最初はこのような字を書いていたのです。でも何回も何回も練習して、少しずつ思ったような絵や字が描けるようになり、その絵と詩をまとめて何冊も本を出しています。さらに星野さんの絵と詩を展示した星野さんの美術館は全国で2つもあります。星野さんは今も生きていて、絵や詩を描いたり講演会などをする活動を続けています。私が星野さんのことを初めて知ったのは今から20数年前でしたが、当時苦しいことや辛いことがあってくじけそうになっていた時に、次の詩に出会い、何とか頑張れました。今日は星野さんのこの詩を紹介して終わりにします。皆さん何を感じるでしょうか。

<鈴の鳴る道>

「車椅子に乗るようになってから12年が過ぎた。その間、道のでこぼこが良いと思ったことは一度もない。ほんとうは曲がいくわった草の生えた土の道の方が好きなのだけれど、脳味噌までひっくりかえるような振動には、お手あげである。だいいち、力の弱い私の電動車椅子では止まってしまう。

車椅子に乗って、初めて気がついたのだが舗装道路でも、いたるところに段差があり、平らだと思っていた所でも、横切るのがおっかないくらい傾いていることがある。ところが、この間から、そういう道のでこぼこを通る時に、ひとつの楽しみが出てきた。

ある人から小さな鈴をもらい、私はそれを車椅子にぶら下げた。手で振って音をだすことができないから、せめて、いつも見える所にぶらさげて、銀色の美しい鈴が揺れるのを見ていただけでも良いと思ったからである。道路を、走っていたら、例のごとく小さなでこぼこがあり私は電動車椅子のレバーを慎重に動かしながらそこを、通り抜けようとした。その時、車椅子につけた鈴が「チリン」と鳴ったのである。心にしみるような澄んだ音色だった。「いい音だなあ」私はもう一度その音が聞きたくて、引き返してでこぼこの上に乗ってみた。「チリン」「チリン」小さい音だったけれど、ほんとうに良い音だった。

その日から道のでこぼこを通るのが楽しみとなったのである。長い間、私は道のでこぼこや小石を、なるべく避けて通ってきた。そしていつの間にか、道にそういったものがあると思っただけで、暗い気持ちを持つようになっていた。しかし小さな鈴が「チリン」と鳴る、たったそれだけのことが私の気持ちを、とても和やかにしてくれるようになったのである。鈴の音を聞きながら、私は思った。

人も皆、この鈴のようなものを、心の中に授かっているのではないだろうか、その鈴は整えられた平らな道を歩いていたのでは鳴ることがなく、人生のでこぼこ道にさしかかった時揺れて鳴る鈴である。

美しく鳴らしつづける人もいるだろうし、閉ざした心の奥に押さえ込んでしまっている人もいるだろう。私の心の中にも、小さな鈴があると思う。その鈴が、澄んだ音色で歌い、キラキラと輝くような毎日が送れたらと思う。私の行く先にあるみちのでこぼこを、なるべく迂回せずに進もうと思う。」

皆さんも辛いことや苦しいことに出会った時、この詩を思い出してみてください。以上で今日の話が終わりにします。

「辛いという字がある。もう少しで幸せになれそうな字である」これも星野さんの言葉です。校舎の周りの「わか竹」も寒く辛い冬をじっと耐え、暖かな春の幸せを待つかのように育っています。厳しさ、辛さを乗り越えてこそ、人は大きく強く、そして優しくなれると思います。まだまだ厳しい寒さは続いています。3学期も気づけば約半分が過ぎました。2月は来週から各学年毎に授業参観日も設定しています。3学期後半も引き続きご支援・ご協力よろしくお願い致します。（文責：大西孝一）

佐久市立岸野小学校

*ご意見、ご要望、お問い合わせ
などは、下記までお寄せ下さい。

TEL 0267-62-0384

Fax 0267-62-0542

